

2014年度 国際WG活動報告

化学企業における GSCMのIT化の今後の予定

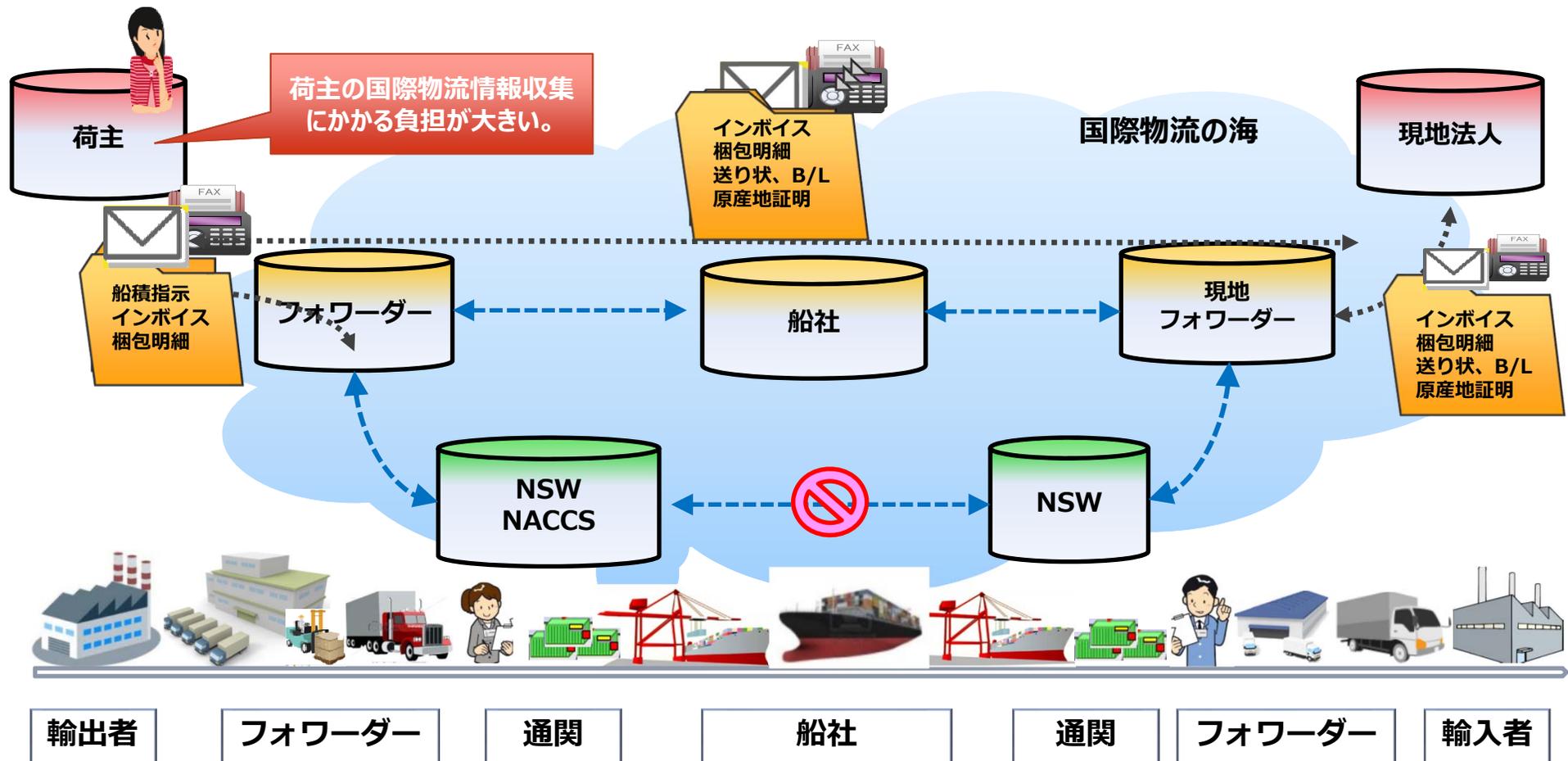
(輸出入当事者間の情報基盤の構築に関するFS)

2015年5月26日

情報通信委員会
CEDI小委員会 国際WG

1. グローバルサプライチェーン情報管理の現状

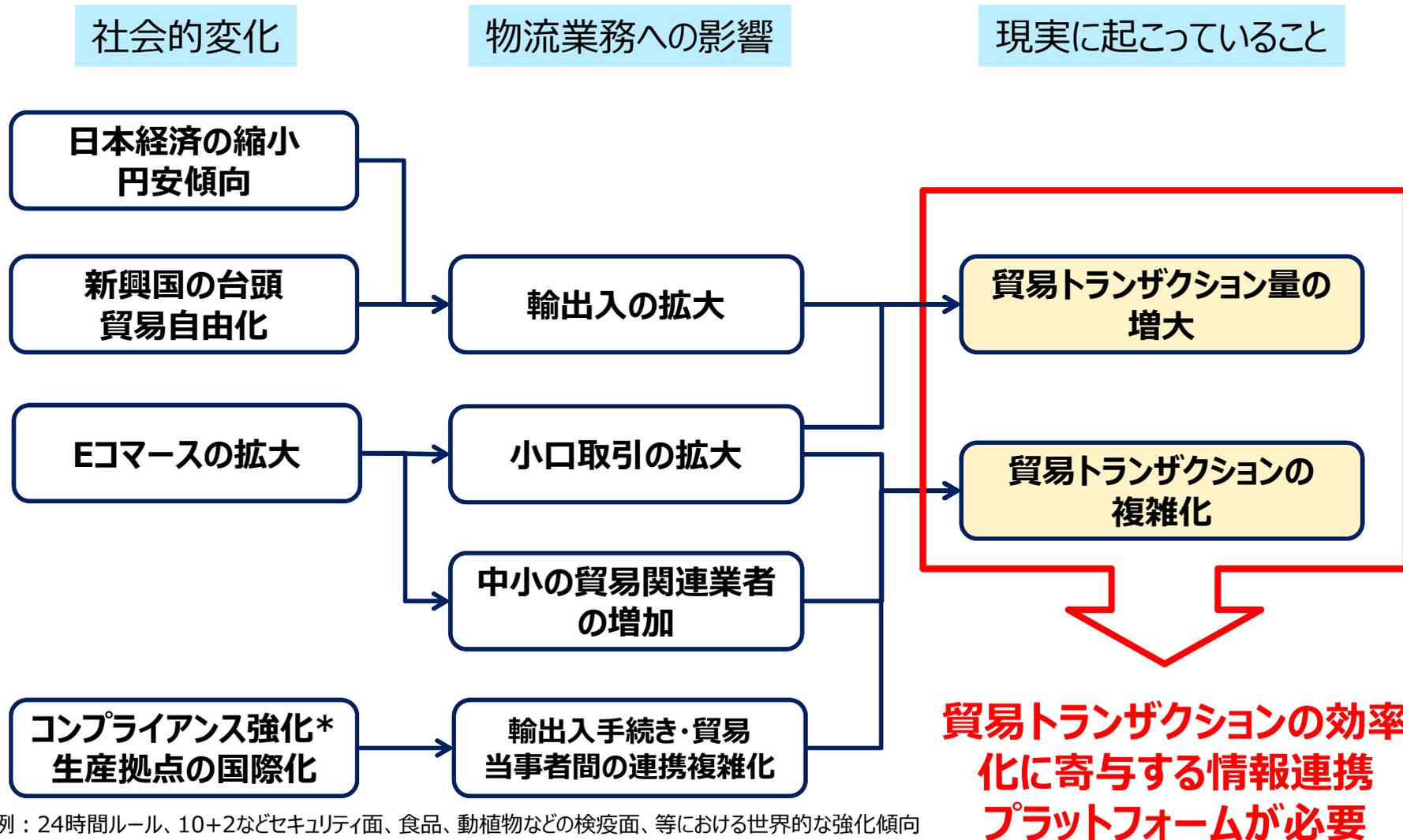
グローバルに展開する購買・製造・在庫・マーケットを正確且つタイムリーに結びつける国際物流の領域における関係者間の情報連携は、多くがe-Mail、ファイルサーバ、FAX、郵便に依存しているため、グローバルサプライチェーンの情報を集約するために荷主にかかる負担は極めて大きいものがある。物流企業の情報サービスや電子的な情報連携サービスの利用も始まっているが、技術的あるいは経済的な制約が多く広く普及しているとは言い難い。



出典：2014年度CEDI資料より作成

2. 国際物流を取り巻く社会的変化

一方、社会的変化により下記のような変化が起きている。その結果貿易トランザクションの増大・複雑化が起きており、このニーズに対応するためにも安価に利用できるプラットフォームは必要であるとする。

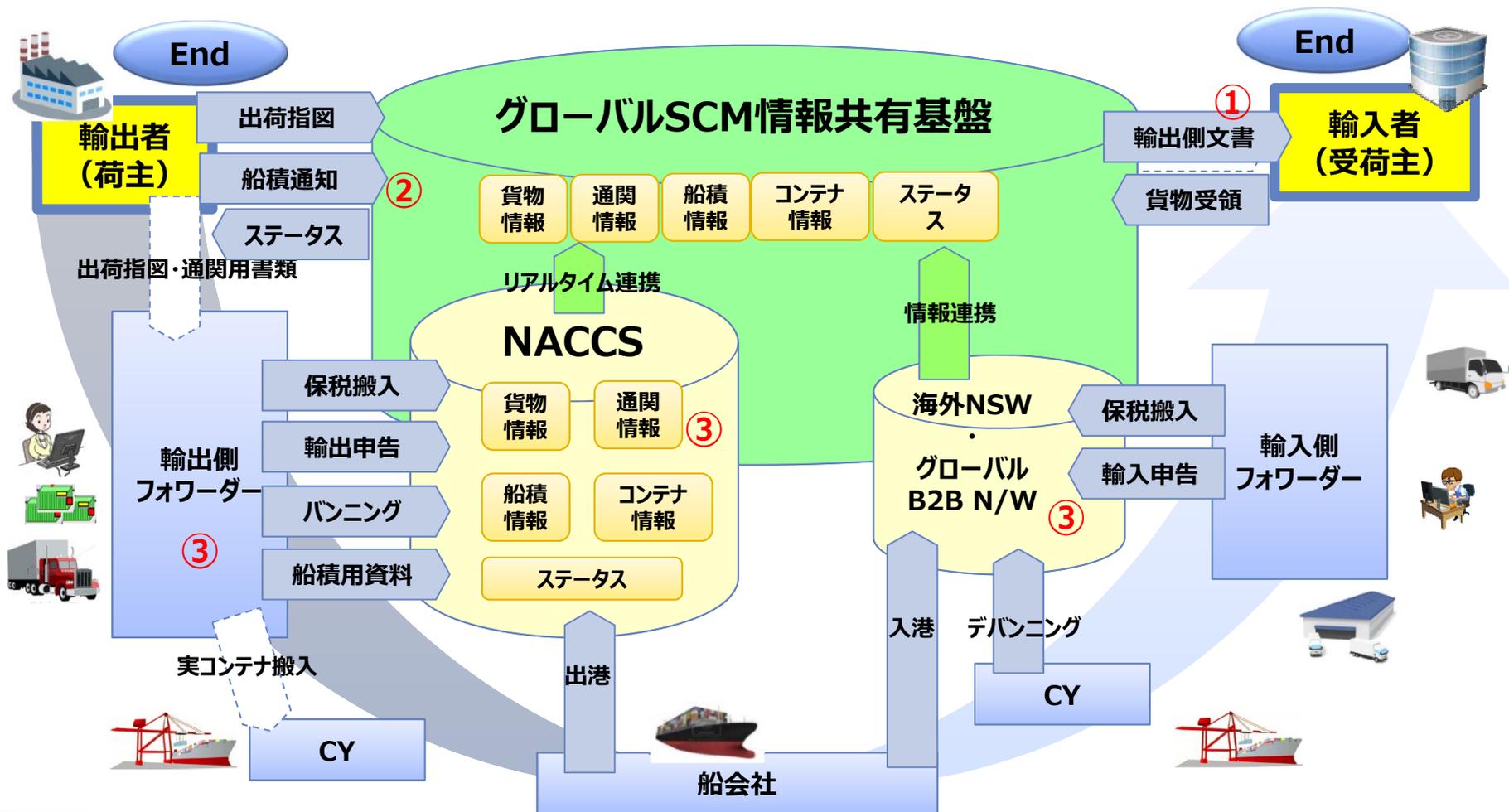


*例：24時間ルール、10+2などセキュリティ面、食品、動植物などの検疫面、等における世界的な強化傾向

グローバルサプライチェーン情報連携のためのプラットフォームは、End-to-Endの荷主間貿易手続きにおける各イベント情報の迅速な共有*を目的とし、下記の主要件の達成を目指したい。

- ① **荷主ベネフィットの実現**： 荷主の欲しい形（粒度・タイミング等）で情報取得できること。
- ② **個別インタフェースでなくシングルインタフェース**： 荷主から見てワンストップサービスであること。
- ③ **既存資産の活用**： 荷主をはじめとする関係者が現在持っている資産を最大限活用できること。

*情報共有により目指す効果は、「手続き効率化、省力化、スピードアップ、属人性排除」により測定するものとする。



4. 2015年度 活動スコープ案

グローバルSCM情報連携基盤に向けた第一歩として、2015年度は我が国のナショナルシングルウィンドウ（NSW）であるNACCSに蓄積された情報を活用し、「輸出入当事者間の情報共有基盤構築」のフィージビリティスタディを行う。

スコープ① 日本から輸出：NACCSに登録された輸出関連文書を輸入者へ連携

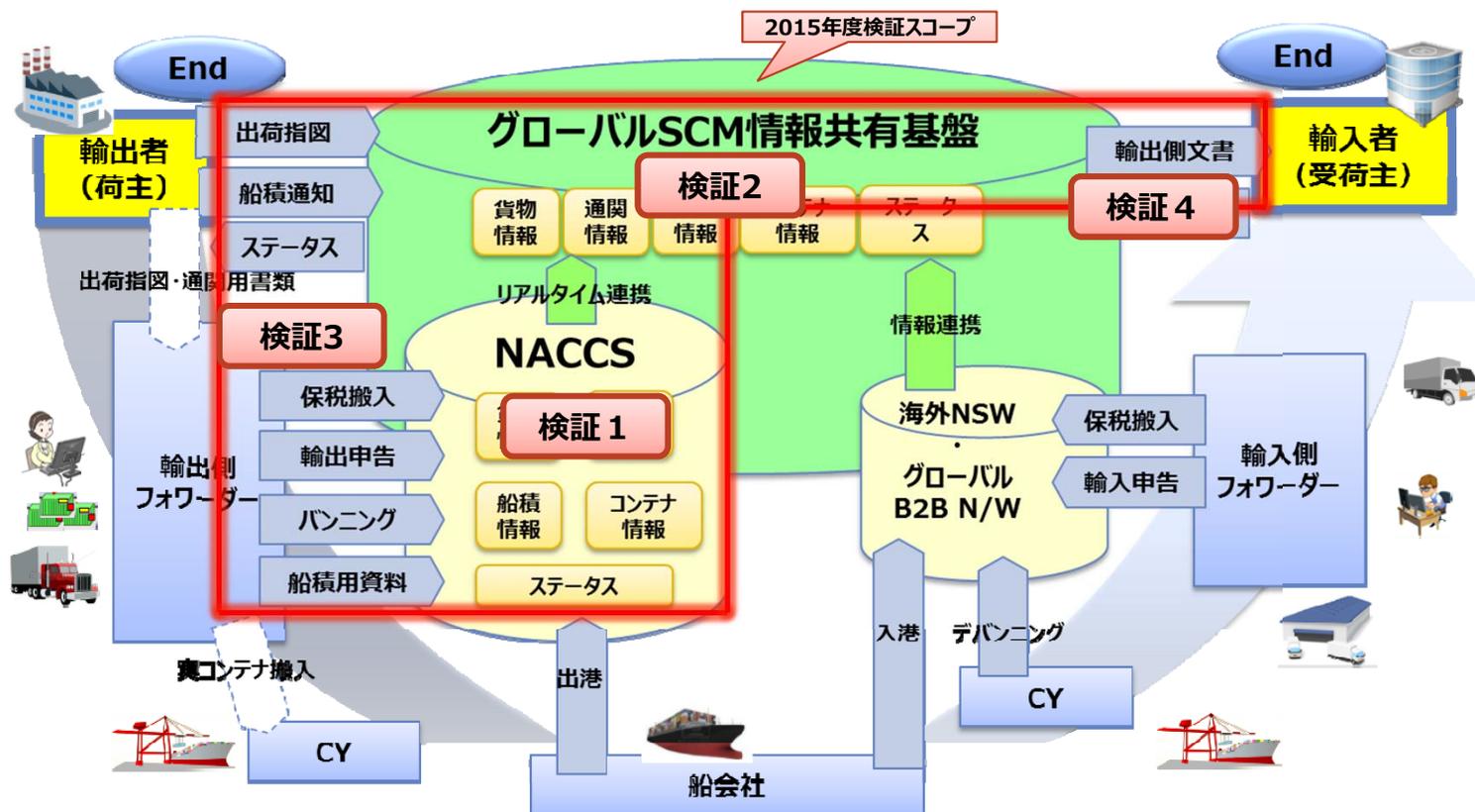
スコープ② 日本への輸入：日本版24時間前申告ルールを活用し、出港前情報を輸入者へ連携

検証ポイント1：NACCS情報の活用が可能か？

検証ポイント2：輸出者、輸入者間のコミュニケーションが効率化するか？

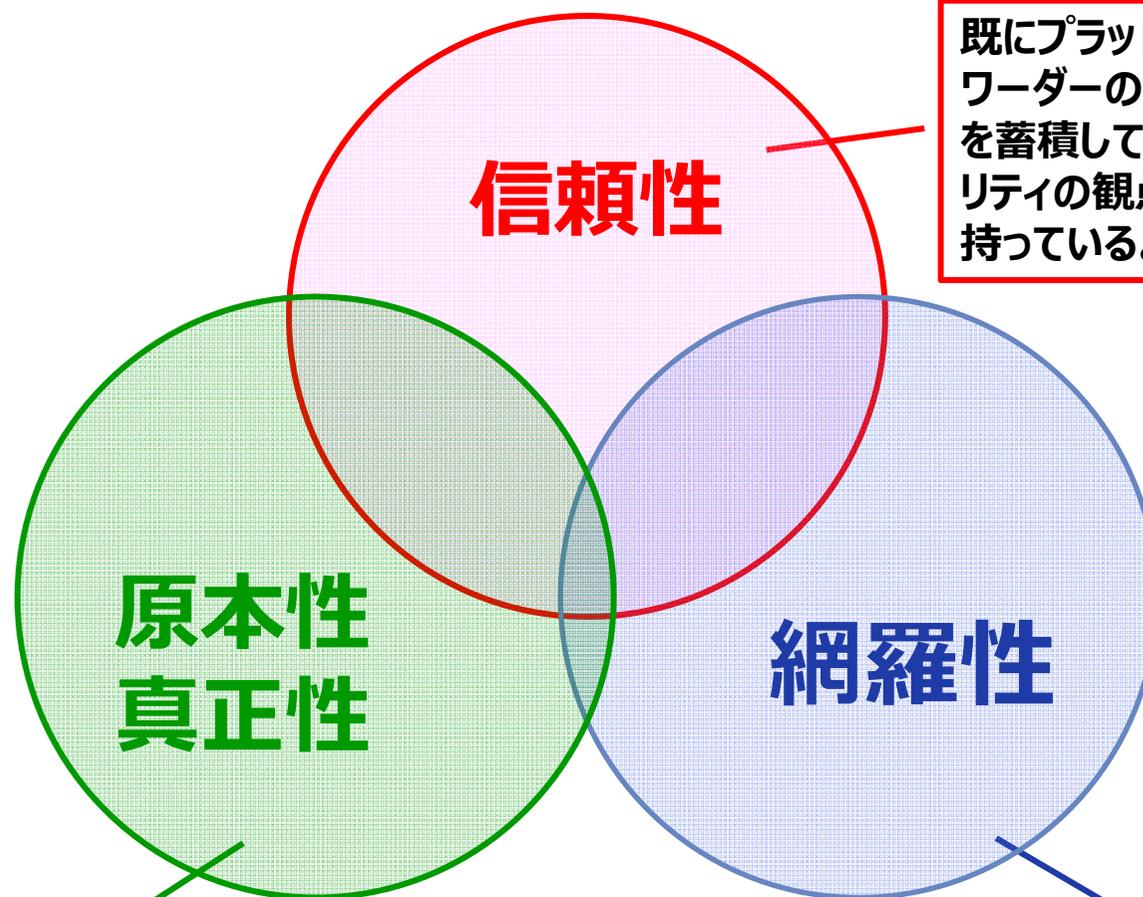
検証ポイント3：荷主とフォワーダーの情報連携が効率化するか？

検証ポイント4：荷主からみて、情報共有の結果として、輸入者側の業務が効率化するか？



5. NACCS情報を活用する理由

下記の3つの視点から、輸出入当事者間の情報共有にNACCS情報を活用する。



既にプラットフォームとして国内フォワーダーのほとんどが接続し、情報を蓄積している実績があり、セキュリティの観点からも高い信頼性を持っている。

NACCSの情報は官公庁への正式な申告・申請であるため、原本性・真正性が担保されている。

利用するフォワーダーの規模や輸出入先地域に関わらず、必ず通る共通的な情報基盤である。

6. フィージビリティスタディ検討体制

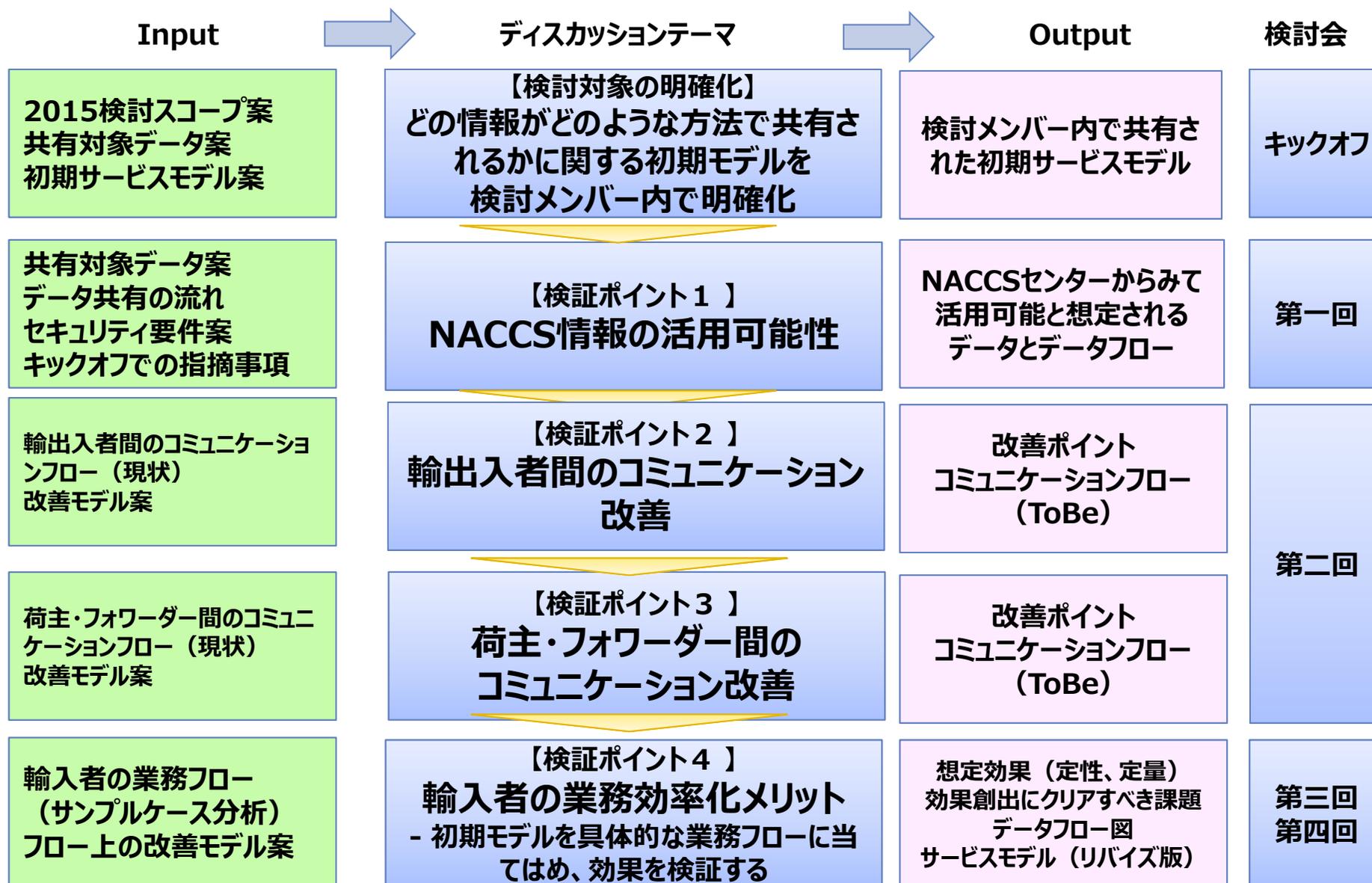


NTT DATA

フィージビリティスタディは、以下のとおり、CEDIメンバー、NACCSセンターおよびその開発パートナー、物流企業、標準化団体が参加して検討を進める方向で調整している。

参加企業	役割
CEDIメンバー	本基盤を活用する主要な利用者として、目的を実現する上で必要となる要件の提示、取りまとめを行う。
NACCSセンター (サービス提供者)	NACCSの民間向けデータ活用サービスである本基盤のサービス提供者として、本サービスの要件を確認し、実現可能性の検討、実現プランの立案を開発パートナー（NTTデータ）と共に行う。併せて、他業界からの意見照会も行う。
NTTデータ (開発パートナー)	NACCSの民間向け情報活用サービスの正式受注パートナーとして、本情報連携基盤のグランドデザイン、サービスモデルを提示し、検討メンバーとの協議を取りまとめる。 今期、または来期の実機検証に向け、検証計画の立案を行う。
山九株式会社 日本通運株式会社 住友倉庫株式会社 他 (物流企業)	CEDIメンバーの国際物流におけるパートナーとして、必要な要件に関するコメントを提供する。また、国際物流の元情報提供者としてサービスのフィージビリティを検討する。
JASTPRO (標準化団体)	貿易プロセス簡素化・効率化推進の立場から本FSに参加し、企画の促進および普及のためのアドバイスを提供する。

7. 2015年度検討会の流れ（案）



8. 検討会以外の活動計画（案）

検討会でのディスカッション結果を受けて、以下の活動を計画している。

活動計画	内容
他業界ヒアリング	<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none">1. CEDIの本フィージビリティスタディにて検討したサービスモデルが、家電業界、商社等、他の業界にも同じように応用可能かどうかを、ヒアリングにより確認する。2. また、今回の検討に参加していないフォワーダーや船会社などの物流企業からも意見をヒアリングする。 <p>【メインインタビューアー】 NACCSセンター、NTTデータ</p> <p>【協力メンバー】 JASTPRO、CEDIメンバー、物流企業</p>
サービス化準備	<p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none">1. サービスモデルを実現するためのシステムグランドデザインを検討する。2. 次年度の実証実験に向けて、目的、検証範囲、方法、参加者、スケジュールなどに関する実証実験計画を策定する。 <p>【メイン検討メンバー】 NACCSセンター、NTTデータ</p> <p>【協力メンバー】 JASTPRO、CEDIメンバー、物流企業</p>

9. 2015年度活動マイルストーン（案）



アクション	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
CEDIマイルストーン		▲CEDIフォーラム ▲キックオフ ▲第一回 ▲第二回 ▲第三回 ▲第四回									▲ 他業界ヒアリング結果報告		▲ ▲ システムグランドデザイン、 実証実験プラン検討会
【検討会準備】 ・ 検討体制調整 ・ 初期モデル作成	検討体制調整 初期モデル作成												
【検討会】 ・ 検証ポイントに基づく ディスカッション ・ 輸入側現地ヒアリン グ（オプション）			検証ポイント1～4ディスカ ッション サービスモデルのリバイズ										
【他業界ヒアリング】 ・ 他業界展開に関するヒ アリング								他業界 ヒアリング					
【サービス化準備】 ・ 検討結果取りまとめ ・ システムグランドデザ イン ・ 実証実験プラン										システムグランド デザイン 実証実験プラン			

ご清聴ありがとうございました。